

国際理解講座

世界の料理教室

中国編



1月31日(日)「水餃子」

中国では春節(旧正月)に、家族そろって餃子を食べます。中国陝西省出身のランさんと一緒に、本場中国の水餃子作りをチャレンジしましょう!



2月14日(日)「中国の家庭料理」

中国の一般家庭では、野菜をたっぷり使って、体にやさしい料理を作ります。今回のメニューは、誰でも出来る簡単料理!身近な食材を使ったヘルシー中国家庭料理に挑戦しましょう!

- 時間** 午前10時～午後1時
- 場所** 豊中町保健センター調理室
- 定員** 各クラスとも約40人
(定員になりしだい締め切り)
- 準備物** エプロン
- 参加料** 材料代1人500円(当日集金)
- 申込期間** 1月14日(木)～
各クラス開始日より3日前まで

▶ 問い合わせ(財)三豊市国際交流協会



韓国編



2月21日(日)「韓国のお雑煮“トック”」

日本と同じように、韓国でもお正月には、お雑煮を食べます。日本のものとは一味違った、韓国の“辛い”お雑煮を、一緒に調理してみませんか?



2月28日(日)「韓国の混ぜご飯“ビビンバ”」

韓国語で「ビビンバ」は『混ぜご飯』という意味です。日本でもすっかり定着した、ヘルシーメニュー「ビビンバ」。韓国出身のチェさんと一緒に、簡単に家庭でもできるビビンバを作りましょう!

56-5121(マリンウェーブ内・火曜休館)
ホームページ <http://www.mitoyo.org>

シリーズ No.43 **なんなん? 食育**

自分で育てた野菜 おいしかったよ!

2年生が生活科の野菜づくりをとおして、食べ物大切さについて学習しました。5月、地域の野菜名人に来ていただき、野菜の育て方について教わりました。植えたのは1人1鉢のミニトマトと、学級園にナス・オクラ・ピーマン・キュウリ・枝豆・トウモロコシの中から



自分たちで育てた野菜の味は格別

自分の好きな野菜をひとつ。野菜名人に手を添ってもらいながら、ていねいに苗を植えました。「大きくなあれ」と毎日の水やりを続け、花が咲いては大喜びし、小さな実を見つけてはみんなで報告し合いました。野菜名人も心配してときどき野菜を見に来てくれました。一生懸命世話をしてみごとな野菜が実った7月、お世話になった野菜名人を招いて、サラダパーティーをしました。自分で育てた野菜の味は格別で、野菜の苦手な子もここにこしながらサラダをほおばりました。

今、学級園には1年生が育てている大根の葉が青々と茂っています。

大野小学校

野菜名人に教わりながら苗の植え付け



特別補導活動で 気づいたこと

三豊および観音寺警察署の生活安全課と少年育成センター補導員が合同で、ゆめタウン三豊店、マックスバリュ観音寺駅前店、観音寺駅周辺の特別補導活動を行いました。

子どもの来店方法や店内での様子を見て、ベテランの補導員さんが子どもたちのそばへ動き出します。何気なく笑顔で声をかけ、それとなく注意を促す補導員さんの姿には頭が下がります。

青少年の健全育成では、なんとといっても各家庭での保護者の姿勢が大切です。家庭内で家族が顔を合わせることがチャンスです。家族団らんを大切に、次のことを心がけて、子どもたちと夢や希望を語り合ってほしいと思います。

☆ 団らんを大切に

☆ 子どもたちの心の変化に気づく保護者に

☆ 「めあて」の持てる子どもに

日々の生活を共にすることにより、めあてを持って素直な気持ちで未来に立ち向かってくれるものと思います。健全育成の出發は家族間の人間関係です。チャンスをとらえ、心をより強く結ぶよう取り組みましょう。

少年相談コーナー

心子救

相談電話 ☎ 62・1116

少年育成センター

一般用 62-1115

少年相談 62-1116

選挙制度120周年記念 選挙関係功労者表彰

長きにわたり選挙の管理執行に精励された方に贈られる選挙制度120周年記念選挙関係功労者表彰が11月25日に行われ、三豊市からは次の皆さんが受賞されました。(敬称略)

総務大臣表彰 関公太郎(詫間町)

総務大臣感謝状 森 幸昌(高瀬町)

片岡 千秋(詫間町)

国民健康保険一部負担金を減免できる制度があります。災害や失業など特別な事情により、病院への一部負担金の支払いが困難になったときは、一部負担金を減額・免除したり、支払いを延期したりできる場合があります。詳しくは、ご相談ください。

問い合わせ 健康課 73・3014

目指せ男女共同参画社会 さかいに参加して No.4

10月30・31日に開催された日本女性会議の中で、弁護士で日本初の女性市長として3期を務めた北村春江前芦屋市長から、行政という男性社会へ飛び込み、市政に女性の声を」と努力し乗り越えてこられた生の体験談が語られました。

特に、阪神淡路大震災で500人もの被災者が出た中、女性の視点でめ細やかに対応し、復旧への采配を振るった話には、どんな引き込まれていきました。

男性社会に偏らないためには、女性自身がレベルアップし、実力をつけることが大切です。男女に能力の差はありません。あるとすれば、個人差、数の差です。今は過渡期であり、子育て、家事、介護、働き方への意識は、60年前に比べて確実に変わりつつあります。実践者である北村さんの声には、私たちのこれからの活動へのエールがこめられていました。

与謝野晶子の生誕地にちなんだ「今大会テーマ、山の動く日」の「今ぞ目覚めて動くなる」のように、今こそ女性だけでなく男性も目覚めて動くときです。一人ひとりが自分らしく輝く三豊市をつくるため、今回参加した20人の目ざめを上げていきたいです。

三豊市男女共同参画社会づくり推進協議会委員 大平淳子(女性フォーラム高瀬)

